

看護の日 イベントの ご案内



日時 2018年5月8日(火) 10:00~12:00
場所 イトーヨーカドー帯広店 1F
内容 健康相談会

血圧測定、血管年齢測定、体脂肪測定、肺年齢測定、骨密度測定、栄養相談、お薬についての相談など
※肺年齢測定は人数に限りがあります。骨密度測定は規定で測定しますので、ストッキングやタイツの着用は避けて下さい。



**参加
無料**

診療報酬改定のお知らせ 入院中の食事代が変わります (標準負担額)

入院中の食事代はいくらになるのか?病院によって高い安いはあるのか?急に入院することになってそんな疑問を抱いている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。結論から言いますと、入院中の食事代は全国一律の値段に決まっています。これは健康保険の入院時食事療養費という制度により標準負担額が決まっているからです。

入院中の病院食は「1食につき360円」(2018年3月現在)となっています。この食事代の標準負担額は平均的な家計の食費を勘案して厚生労働大臣が定めることとなっていますが、**2018年4月からは100円上がって、1食につき460円になることが決まっています。**

■入院時の食事代は1食につき、下記の定額負担になります■

一般の方	平成28年4月~ 1食につき360円	平成30年4月~ 1食につき460円
住民税非課税世帯の方	1食につき210円	
住民税非課税世帯の方で 過去1年間の入院日数が90日を超えている場合	1食につき160円	
住民税非課税世帯の方で 所得が一定基準に満たない70才以上の高齢者	1食につき100円	

重症心身障がい病棟行事「新成人・還暦を祝う会」

ご家族からお祝いの言葉が届きましたので、ご紹介させていただきます。

帯広病院院長 菊池洋一様

新成人・還暦のお祝いに参加する機会を頂き有り難うございます。(中略)

修は、昭和33年1月25日に豊頃町で生まれ、生後身体が弱く入退院を繰り返し、昭和43年8月に帯広病院施設に10歳で入所。40歳を過ぎた頃から体力の衰えも目立ち、今はほぼ寝たきりの状態の生活ですが、なんとか元気で楽しい生活しております。今回、還暦を迎え、これまでの50年間本当に院長先生をはじめ職員の皆様にお世話になりました。私ども親達は、超高齢化により、行事等は毎回参加できない状態ですが、健康に気を配り、少しでも多く行事等参加出来ますよう努力して参ります。粗辞ではありますが、お礼の挨拶といたします。

第6病棟 菅野修 父 菅野文治



エッセイ Me!! 企画課 藤井 俊介

突然ですが、この広報誌が発行される春の転動で十勝帯広を離れることになってしまいました。社会人としてのスタートを切った十勝帯広での6年間の思い出を振り返ると、各地の収穫祭、モール温泉、ママチャリ耐久レース、パークゴルフ、ばんえい競馬などここでは書ききれないほどたくさんの楽しかった思い出があり、この春から十勝帯広を離れることがとても寂しいです。機会があれば、またぜひ十勝帯広へ戻ってきたいと思っています。十勝帯広6年間ありがとう!また来る日までごきげんよう!!



次回 理学療法士 松尾さんに!



こころみ

2018
Vol.5

平成30年4月1日発行 独立行政法人国立病院機構帯広病院 広報誌 編集・発行／広報委員会 発行責任者／朝井 裕一

こころみ

心診 Examine the Heart, Mind, Core



2018
春
Vol. 5

ご紹介 新任医師

4月1日より
着任致しました。

- 心臓血管外科医師 菊池 悠太 先生
- 呼吸器外科医師 阿部 昌宏 先生
- 精神科医師 三浦 元 先生
- 神経科医師 吉田 雄介 先生
- 麻酔科医師 多田 雅博 先生

宜しくお願い致します。

お知らせ ニュース

病院広報誌 「こころみ」の 創刊1周年記念。

皆様にご愛読いただき、創刊一周年を迎えることができました。「こころみ」というタイトルには、当院が心臓は元より精神疾患や肺病変(体の中心部)及び重症心身障がいを診る施設であり、「こころ」を「診る」という意味が込められています。

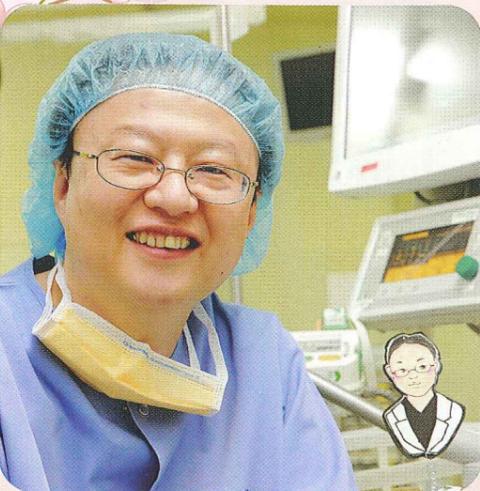
これからも、「こころ」を「診る」医療を皆様に分かりやすくお伝えしてまいりますので、末永くご愛読いただきますようお願い申し上げます。

当院麻酔科よりごあいさつ

こころみをご覧の皆様、こんにちは。麻酔科部長の朝井裕一と申します。この広報誌を作っている広報委員会の委員長もしています。

当院に赴任したのは平成15年で、早いもので今年16年目になります。赴任した当時から当院は心臓手術が上手とのことと有名だったのですが、麻酔科医にとって心臓麻酔は最も難しい麻酔の一つであり、あまり好んで選択する人が少なく私が初代の麻酔科医になります。当院で心臓麻酔を勉強した後輩達は、その経験を基に各地で活躍され、今ではとても頼もしく思っています。

当院の特徴は現時点では心臓と肺の手術を主に行っており、少数のエキスパートの集まりだということ、人数は少ないですがその分各科の連携が取れていることが挙げられると思います。ICUは心臓血管外科、呼吸器外科、循環器内科



麻酔科部長 朝井 裕一

の先生と一緒に患者さんを治療し、当直や当番も交代で行っています。

私たち麻酔科医が皆様にお会いするのは、だいたい手術やICUでの状態の悪い時に限られ、元気なときにお会いすることはあまりありません。当然皆様にお会いすることなく健康で生活されるのが一番ですが、必要があった時には全力で協力させていただきますので頼っていただければ嬉しく思います。

最後になりましたが、今年度は初めての病院祭など少し地域の方とのふれあいに力をいれた取り組みを考えています。

是非、皆様楽しみにお待ちください。

全身麻酔のおはなし

麻酔科だより <麻酔科部長 朝井 裕一>

●全身麻酔中は必ず寝ていますか？

はい。手術中は基本的に目が覚めることはありません。最近では脳外科領域で手術による合併症を減らすために覚醒下の手術を行ったりすることはありますが、そのような必要のない場合は手術中に目を覚ますことはありません。安心して手術をお受けください。



●全身麻酔をかけたら目が覚めないということはないですか？

麻酔薬の投与によりずっと目が覚めないということはありません。投与した麻酔薬は必ず代謝されて体内から無くなりますが、その代謝によるスピードの個人差があるので麻酔から覚めやすい人や覚めにくい人は存在します。(お酒と同じで少し飲んだだけでも酔ってしまう人とたくさん飲んでも酔わない人がいるのと同じような感じです。)ただずっと覚めないということはありませんので、ご安心ください。

●手術後に目が覚めないことはありますか？

主に心臓手術の場合どうしても脳梗塞や脳出血の合併症の可能性がゼロではありません。そのような場合は目が覚めにくいということはありません。当院でも可能性はゼロではありませんが、なるべくリスクが少なくなるように手術計画を立て手術を行っています。また、全身状態が悪い場合は持続的に鎮静薬を使用し、しばらく眠らされた状態で治療することもあります。



よくある食事の疑問のおはなし

栄養管理室だより <管理栄養士 眞島 歩実>

Q.「カロリーゼロ」飲料は、どれだけ飲んでも大丈夫？

A. 肥満や糖尿病のリスクを増加させるため、飲み過ぎには注意しましょう。

カロリーはゼロではありません!

100ml当たり5kcal未満……「カロリーゼロ」、「ノンカロリー」
100ml当たり糖質0.5g未満……「糖質ゼロ」

例えば、500ml入りペットボトルの清涼飲料水の場合、10~25kcalのエネルギーを含む可能性があります。厳密には0kcalではありませんが、普通の嗜好飲料よりも、カロリーは大幅に少ないと言えます。嗜好飲料の置き換えとして利用するのは良いかもしれませんが、飲む量には注意しましょう。

人工甘味料が使用されています!

「カロリーゼロ」、「糖質ゼロ」なのにどうして甘い?と思ったことはありませんか? この甘さの正体は、人工甘味料です!

人工甘味料とは…甘味料(アセスルファムK、アスパルテーム・L-フェニルアラニン化合物、スクラロース等)を指します。舌に甘味を残しますが、体内で消化吸収されないため、エネルギーにはなりません。人工甘味料の多用によって甘味に鈍感に、そしてより甘いものを欲するため、菓子類等の摂取量増加につながる可能性があります。また、砂糖やブドウ糖とは異なり、血糖値の上昇が少ないため、脳は「食事が足りない」と錯覚し、食べ過ぎてしまう可能性があります。人工甘味料の多用には気をつけましょう。



こころみ Q&A

ここでは、当院への疑問質問をこころみQ&Aとしてお応えしたいと思います。

みなさまからの質問をお待ちしております!
ご質問がある場合はホームページのお問い合わせページへお気軽にどうぞ!



Q1. 糖尿病の検査のとき血糖の他にヘモグロビンなんとかって調べるけどなんですか?

A1. それはHbA1c(ヘモグロビン・エフワンシー)といって過去1~2ヶ月の血糖値の平均を反映して上下するもので血糖コントロールの状態の目安となる検査項目です。過去1~2ヶ月の血糖値の平均を反映しますので、食生活が乱れて高血糖状態が続いていた場合、その日の食事を控えたとしても下げる事は出来ません。

Q2. 目安はどれくらいですか?

A2. HbA1c値 5.4%未満は普段の血糖値が基準値以下の方
HbA1c値 5.4~6.4%の方は時々血糖値が高い方(境界型糖尿病)
HbA1c値 6.5%以上の方は糖尿病を強く疑いますが正確な診断に血糖値を含めたその他の検査値もあわせて評価します。

日本糖尿病学会は、糖尿病の予防と治療の向上に取り組んでいます。糖尿病となった方が健康で幸福な寿命を全うするためには、早期から良好な血糖値を維持することが重要です。血糖値の平均を反映するHbA1c(ヘモグロビン・エフワンシー)を7%未満に保ちましょう。

